



卓 話



「仏教とロータリークラブ」

近藤 龍観会員

私たち指導者、会社のトップにいる人は難しい言葉も一つ二つ入れないと納まりがつかないと、日本語の一番いいところは熟語で比喻も全部出来てしまうというようなこともあるので、皆さんのお手元に資料をお配りしました。親睦委員会で忘己利他の精神という言葉がありましたが、ロータリーと仏教は密接になり、たいしたものです。今日は仏教について改めてお話しします。



お釈迦様の生まれは意外に知られてなく、キリストとどっちが先かと言われます。キリストは紀元0ですが、それから前600年に釈迦様が生まれています。宗教的にも600年前からありました。

仏教は難しく、小乗仏教と大乘仏教を一口に説明しにくいのですが、簡潔に言いますと小乗仏教は仏教が出た時に説かれた原始仏教で、小さい乗り物と書く。蟻を殺してはいけない、肉を食べてはいけないとか細かい事ばかり書いてあります。現在は大乘仏教で、大きな乗り物ですからあまり小さいことは関係なく、曼荼羅と言う言葉にある宇宙観です。大乘仏教の宇宙観を話すと2~3日かかるかも知れませんが、これは壮大です。私なりに考えるのですが、仏教とは楽しく一生をどうやって終わるかの知恵を説いたもので苦勞することではないです。バラモンは、生きいてるうちにいろんな針をさして苦勞をすれば死んだ予後の世界ではきっと楽しさがある、楽になると言う教えです。この世にいる時にどうやったら楽しく皆さんと過ごすかと言うことを説いたのが仏教なので大きな違いです。どんなことでも日本人や世界の民全部が幸せであるならばなんでもいい、それを応援してくださいる人は何人でもいい、だから多神教なのです。千人も千人の神様がいてもいい。なぜ一人だけなのかとっている訳です。私にはこの神様が一番発揮する、この人が一番いいと言うならそうしたらいい。ただ基本は楽しく有意義な人生を送るためにプラスになるものは全部取り入れようです。曼荼羅の中もいっぱいあります。また神道だってそうです。八百万の神は勘定できない、これが仏教の本当の思想です。一神教ではないので非常に

易しいというか分かりやすいお経です。

仏教で一番大事なのはロータリーとそっくりで、三大施です。大きな施しを人にしてあげることが3つあります。これが大教になる大乘仏教で、3大施と読みますが、まず財施。財産、お金で助けてあげる、困った人にお金を届けてあげる。また金、銀、珊瑚、瑠璃、瑪瑙、琥珀、真珠7つある昔宝といわれた宝を届けてあげる、財産やお金で助けるこれが財施です。法施は法の教えです。勉強、学問で、法律の専門家などです。この法施はまさしくこの法律を教える行いです。無畏施、これが大事です。無畏施は逆に言いますとオク施とも言いますが、恐れを取ってあげる事です。畏は恐れです。恐れをとる、これが一番大事です。戦争があったら畏れの発生根本畏れを取ってあげる。こうやってみなさんと一体になっていると畏れがなく大変楽しい。赤ちゃんでも母親が抱けば泣きやみます。これが無畏施なんです。この3つの施しをしようじゃないか、但し、財施が出来ない人はお金出さなくていい、それから、法施、規則、勉強教えられなければそれもいい、だけれど、無畏施の心から愛するのは出来ることです。お金もかからない。この無畏施をやろうじゃないかと言うのがその仏教の三大施の中のひとつとして一番大きな仏教の流れです。三大施はロータリーの精神とそっくりですが、ロータリーより仏教のほうが早いですからこれは仏教から習ったのではないかと思います。また、お金がないから財施もできない時にも世の中は救えます。これは無財の七施といいお金がなくても7つ人にしてあげられることがある。誰でも出来るから実践していただきたい。この無財の七施、どなたか無財の五施って言われたのですが5つでもいいのですが7つが本当です。覚え方がございます。「ガンガンタイ施モン施」というのですが、こういう風に覚えやすく筋がいいのでわかります。顔施と言うのは顔です。顔で笑ったらいい気持ちになります。これは無畏施、畏れを取ってやります。怖い顔をしていたら世の中暗くなりますよ。朗らかなかわいい顔をして笑ってあげてどうしたの？と聞いたら、その人は心の中で微笑むでしょう、仕事よくできるようになります。お金も何もかかりません。それから目は口ほどにものを言いとよく言います。目です。目で微笑んで慈しみの目をしてあげる、全部が救われますね。これはガンガン、顔と目。3つ目は、言施、言葉をかけてあげるのです。どうしようなんて黙っているときに、何か御用ございませんか？とか、どうしたんですか？何でもいい。一声運動ありましたね。横断歩道渡るときに一声かけてあげる。何でもいいですが、

これは愛情があれば絶対出てくるのです。これを細かく言うと言ジ施というのですが、言施でいいのですが、言葉ですね。それからその次は体施、身体でやってあげることです。重いものを持って困った人があったら、持ち替えてあげればいい。自分の身体でやってあげられること、色々たあろうかと思えます。これは体施、身体でやってあげること、やはりお金に関係ないです。オク施、と言うのは家施、自分の住まい、もっと言うと座ってる位置、この場所を交換してあげたり、雨が降っていたらどうぞお入りなさい。そのときに傘をもっていたらさしてあげる。字は家と言う字に施すと書き家施です。それからもう一つ、聞施。聞いてあげる。お年寄りや子供が言うてもらうさいと、この間新幹線に乗っていたら、隣の奥さんの子供が、あれ何？これ何？次から次へと外の景色を聞くんです。3つくらいまでは答えていましたが、4つ5つになったらうるさいな。本当の子供なのにどうしてそんなこと言うのかな？うるさいので聞いてやらない。これはダメです。お年寄りでも何でも聞いてあげてをやらなきゃ絶対ダメです。この間くというのを聞施、耳ですね、聞施というのです。もう一つ、これは一番この中のエッセンスですがショウザセ、ショウはここに書いてないのですが、腰掛け、坐せ、座る。ショウ座施と言う言葉があります。これで7つになるはず。この7つ目のショウザセ。労働組合全員が上部団体と連絡を取って戦ったこともあるのですが、この時にこの目の前に在る椅子を全部取っ払いなさい。足元までお互い見えるような形にしよう、私一人にずっと並んで椅子も机もとらして話したことがあります。これもショウ座施のひとつですね。相手の立場になって考えてやるということです。座施と言うのは座っているところじゃないんです。座っている位置を交換しなさいということです。立場を変える、これが座施なんです。仏教大辞典見ても、この座施ついて7つかいてありますが、この座施は座っている位置を変える、その人の立場になって考えてあげる。会社の中でもその立場、従業員・従業員の立場になって考えてあげる、自分の立場を入れ替えて考える、これが座施です。七つがガンガンゲンタイオクモンセザセ、無財の七施、といひましてお金がなくてもしてあげられること。この七つを実行することが非常にいいのです。今日は脈略があまりない話ですが、忘己利他の次をエンドンとよみます。非常に円満に最後に悟るという意味ですが、それは言葉で言えばそれだけです。もっとも大事なことがあります、円頓というのは自分が悟るだけじゃなくて人も悟って一緒に行こうじゃないかと言うことです。臨機応変に物事進まなくちゃいけないと書いてあります。平和な時にでも治にいて乱を忘れるという言葉の通りに考えなくちゃならない。円頓というのはその時その時によって違って来る。仏教なら決まったらそれだけか？と言ったらとんでもない話で、臨機応変の処置をして進まなくちゃならないと書いてあります。だから経営者が平和なときであれば、お神輿経営者でもいいですね。上に乗るだけでいける。だけでも修羅場をくぐって決断しなければならぬというような時はいくつもある。そのときにはこの円頓なん

です。その時によって修羅にも変われと。みなさん国立博物館に行って見に行かれた方はありますか？韋駄天などいろいろございます。あの形をみてお分かりになると思いますが、観音様のような顔をしているのと、もっと厳しい顔をされている仏さんたくさんあります。笑ってるばかりいるのじゃないよと言うことです。いったん環境が変わるときにはそれを出来なければダメ、それが円頓なんです。円というのは水が形の変った器に入ればそのとおり変わっていく変転万化と言う言葉が載っております。動かなくてはならない、偏ってない、頭はいつも柔らかくしなくちゃいけない、と言う言葉です。円頓の下に止観とございますが、止観の止は一瞬自分の欲をパッととっていわゆる一番上の忘己利他と同じですが、その欲をパッと止めてもう一回見直して御覧なさい。そうすると正しいことが分かってきます。いっぺんくらいはとどまっていつも歩いていないで止まってしかも自分の心を無にしてみなさい、と言うようなことで止観とあります。その下に、天庭光輝を発すると書いてありますが、これは非常に人生楽しく生きるのに一番大事なことのひとつだと思っております。天庭光輝を発するのは一番からだの調子のいい時だと思っております。天庭と言うのは額です。天庭光輝を発するの相、光輝くと書いてあるのですが、この光輝はコウボクのコウがあります。ピンク色で光輝と言う三味線知っていますか？三味線の竿がコウキと言う木です。これはやはり光輝に通じるのです。香木の香の木いい匂いがします。日本では紫檀と言っています。光輝を発するの相、いわゆる天庭がポーとあかくなってここから気が出ているその相。概してこの四谷ロータリーの女性は皆さん光輝を発するの相だから大成功なのは、そういう人が楽しく生きながら自分の持っている力をほんとは100%出しているからだだと思います。今日光輝を発しても明日は光輝を発しないって事だであるんです。身体の調子ですから。だから自分で光輝を発するの相を鏡で見てこれかな、これかな？と思ってそれから交渉に出れば必ず成功します。ただ見たときに、今日はダメだな、病人みたいな顔してる、こう思ったらやめなさい。その日はダメです。負けてしまう。勝つと言うのは天庭光輝を発してなくちゃダメなんです。それからロータリーと少し脱線しますが、一着点眼と書いてありますが、これは、一着点が大事です。碁や将棋でもそうかと思えます。あの盤面でどこから考えたらいいか分からないですよ。これは一瞬にして自分が感じる力です。一直線の力、これが勝負です。この一着点が非常に大事で、ついこの間、碁の名人藤沢秀行（シュウコウ）さんがなくなりました。非常に変わった方でして、シュウと言う字は20代のときにつけた本院坊がつける名前です。皆にもすごく叱られました。そしたら、僕本院坊になればいいのでしょと言ってなったのです。この一着点が出ない人間はダメな人間だということを言っているのです。だけどそれは仏教的にそうじゃないのです。一着点が出ない人間は一生懸命それを愛してやれば一着点が出てくると書いてあります。藤沢秀行さんはダメなやつはダメだといってますがそんなことはない、やっていたら一着点が出てくる。ただ一着点があるとい

うことだけ知っているだけでも随分違うのではないかと思います。一着点の下に意思甲冑があります。最大の人間の武器は意思でやろうという気持ち。やろうと思ってもなかなか出来ないのに、やろうと思わなくてできるわけがない。甲冑と言うのは、どうしてもなかなか勝てないものです。強いもの。戦いの時甲冑が絶対必要。意思甲冑と言うのは自分がこうしよう、と思ったこと、これは信念ですが、こう思っていれば必ずやそれに近づいていく、と言うことが仏教の真髄の中にひとつ入っている。仏教と言うよりも天台密教の中のひとつです。天台密教といいますと、代表的なものは、観音様ではなく不動明王です。この意思甲冑と言うのは自分が思えば行く、それと同じ様なことでその下に、道元禪師が夢中の道元と書いてありますが、霧の中の道元、霧の中を歩めば覚えざるうちに衣湿るといいます。これは霧の中を歩いていると勉強しようと思っても思わなくてもいつの間にか自分の身体には湿ったものがついてくる。環境と言うものが絶対大事だと言っている。それをもう一步出た言葉が、霧の中を行こうとすれば真っ白で何も見えません。霧にとどまればわが道が見える、と言います。私はこの言葉が好きです。霧になって見えなくなったら黙ってじっとして、それこそ先ほどの止観ですが、とど

まってみてじっと見ていると、いつの間にか自分の前に道が現れてくる、漠然とした道が見えます、他の人には見えてないです。その道を歩いていけばいいのです。はたからみると驚きますが、本人になればちゃんと見えます。おやりになったら分かります。霧の中に立って歩いたら湿ってきます。湿ったところに自分の進むべき道が黙って見えてきます。それを、まあいいや、とか、そっちに行くと寂しいからいやだ、そっち行ったら寒いからいやだとか、そう言ってはだめです。見えたら行けばいい。見えることは絶対見えます。ただ、やるかやらないかだけのことですが、見えたらやればよろしいので、やはりこの夢中の道元が言った霧の中と言うのは大変大事なことです。いろいろお話してきましたがいずれにしても楽しく人生を送っていくというのは、こういう風に生きたいという哲学を一本持って、それがバックボーンになっていけば非常に楽しく人生が送れますと言うのが仏教の思想でございます。どうか、そのことを体験されて若い方、次の時勢の方に伝えていく責任があるのではないかと、それを進めて行きたい、かように思っております。時間が来ましたのでこれで終わらせていただきます。

どうもありがとうございました。